

～院長コラム～

『発達障害児のパニック』

- ①大きな声を出して泣く、わめく
- ②立ちすくんだまま動けなくなる
- ③自分の顔をたたいたり、腕をかんだりする
- ④他人に物を投げたり、かみついたりする

このようなことが起こります。いろいろなパニックお現れ方がありますね。発達障害のお子さんがすべてパニックを起こすわけではありません。大きな音が聞こえた、触られることが嫌いなのに触られた、など感覚過敏にかかわる原因が1つ。

予期せぬ変更を強いられる、続けたい活動の中断を求められるなど、特有のこだわりにかかわる原因が1つ。

感情のコントロールができない(うれしすぎる、楽しすぎる、興奮した)ことにかかわる原因が1つ。

体調不良にかかわる原因が1つ。

過敏な感覚やこだわりは、発達障害のない人には理解しにくい問題です。なぜ、そんな些細なことに反応してしまうのか、少しは我慢ができないのか、と否定的にとらえてしまいがちです。お子さんは耐えきれない苦しみを感じているということを、理解してあげることが必要です。

『発達障害児のパニックへの対応』

- ①刺激の少ない場所へ移動させる
- ②危険な物を遠ざける
- ③パニックがおさまるまで、静かに見守る

パニックを起こしているお子さんを刺激しないように、静かに見守ることで、20分程度でおさまります。ぶつかっては危険な物は遠ざける、自傷行為がある時は、頭や手と壁の間にクッションや枕などを挟んで衝撃を和らげることです。大きな声でやめなさいなどと叱りつけたり、体や腕を押し込め込んで制止するのは逆効果です。パニックの時は、音や光、触られるという刺激が、本人さんの興奮をさらに大きくすることがあります。年齢を重ねていけば、パニックにならないためにお子さんが、嫌いな音が聞こえたら止めて！とか、触らないで！と伝えられるようになることもあります。言葉で伝えることができればパニックは回避できる可能性が高くなります。

「子ども健康ネットブログ」より



なかしまこどもネット QRコード
※名前を入力して送信して下さい



子ども健康ネットブログ
QRコード

なかしまこどもクリニック



通信

2013年10月号

なかしまこどもクリニック 瑞穂市十九条(パロー北)

ホームページ www.n-kodomo.com

診療時間		月	火	水	木	金	土	日
午前	8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	
午後	14:00~15:00		△		★	△		
	16:00~18:30	○	○			○		

★:漢方外来 14:00~17:30 受付

△:乳幼児健診及び予防接種



診療予約

058-327-4891

お問い合わせ

058-327-3100